


平成29年度国立天文台研究集会開催報告書

平成30年 1月 22日

国立天文台長 殿

| | | |
|---------|---|--|
| 代表者 | 氏名 | (ふりがな) すずき たける 鈴木 建  |
| | 所属・職 | 東京大学 大学院総合文化研究科・教授 |
| 研究集會名 | 第30回理論天文学宇宙物理学懇談会シンポジウム「星の物理の新地平」 | |
| 開催期間 | 2017年 12 月 25 日 ～ 2017年 12 月 27 日 | |
| 開催場所 | 東京大学 小柴ホール | |
| 参加人数 | 207名 | |
| 研究集會の概要 | <p>理論懇シンポジウムは、理論天文学宇宙物理学を専門とする研究者の組織である理論天文学・宇宙物理学懇談会(理論懇)が主催し、毎年開催するシンポジウムである。各年度毎に、研究者コミュニティの間で時宜に合った重要なテーマを取り上げ、理論懇会員にとどまらず会員外からも多彩な分野のレビュー講演を各分野の専門家にお願ひし、最新の研究動向の共有を図っている。</p> <p>平成29年度は「星の物理の新地平」と題し、第30回理論懇シンポジウムを開催した。恒星物理はいわば古くて新しい研究分野である。恒星進化の大枠が理解されつつあるが、周辺分野の発展にも触発され、ブラックホール連星の形成や系外惑星の中心星の活動など、新たな未解明問題も浮上してきている。このような研究分野の状況も踏まえ、今回は以下の方々に招待講演をお願いした。</p> <p>コンパクト星 榎戸輝揚(京都大) 超新星爆発 諏訪雄大(京都大) 重力波 久徳浩太郎(KEK) 恒星進化 齊尾英行(東北大) 元素合成 和南城伸也(上智大) 核燃焼型超新星 山口弘悦(NASA) 低金属量星 須田拓馬(東京大) 再電離、初代星 小野宜昭(東京大) 初代星 細川隆史(京都大) 中性子星 祖谷元(国立天文台) 原始ブラックホール観測 仙洞田雄一(弘前大) 原始ブラックホール形成 原田知広(立教大) 磁場生成、ダイナモ 堀田英之(千葉大) スーパーフレア 前原裕之(国立天文台) 太陽大気 今田晋亮(名古屋大)</p> <p>また招待講演に加えて、博士号取得予定者らの若手研究者を中心に、20件の一般口頭講演を行った。</p> | |

| | |
|---------------------------------|---|
| <p>研究集会の成果</p> | <p>本シンポジウムは、東京大学ビッグバン宇宙国際研究センターおよび宇宙理論研究室をホストとして、太陽から原始ブラックホールまでに及び天体物理分野の理論研究に重点を置きつつ、観測分野の招待講演も交えることにより、幅広い分野の研究者が最新の研究動向を把握し、研究交流を深める場を提供することができた。</p> <p>参加者も20代前半の修士課程学生から70代のシニア研究者までという非常に幅広い年代に及び、若手世代とシニア世代の活発な交流が行われた。全ての講演において質疑応答も活発に行われ、参加者らが今後の研究を進めるにあたり大きな刺激となるだけでなく、研究内容を改善するための一助になっている場面も数多く見受けられた。</p> <p>招待講演15件以外の一般口頭講演も20件行い、若手研究者に優先的にその枠を割り当て、このうち9件が博士号取得予定者によるものである。口頭講演により、若手研究者が自らの研究成果を広く周知する機会を提供することができた。口頭講演以外のポスター発表も56件行われたが、ポスター発表のための時間を長めに取ることにより活発な議論を促し、おおよそその目的は達成することができた。</p> <p>理論懇シンポジウムは毎年異なる場所で開催するが、本年度は東京都心部での開催となった。アクセスの良さのためか、参加者も例年より若干多く約200名を数えたことを最後に申し添えたい。</p> |
| <p>その他参考となる事項 (希望事項も含む)</p> | <p>研究会の内容や講演者の発表ファイルは http://www-utap.phys.s.u-tokyo.ac.jp/meeting/rironkon2017/index.html にて公開しており、自由に閲覧することが可能である。</p> |